

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度農作物病害虫発生予察情報について

令和元年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

令和元年度農作物病害虫発生予報第9号

令和元年10月2日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ (9月13日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第3半旬の県西部9圃場の巡回調査では、発生圃場率が66.7%と、平年(31.2%)に比べて高いが、株当たり寄生虫数は0.26頭と、平年(0.15頭)並の発生である。なお、増殖率の高い短翅型雌成虫が調査9圃場中4圃場で確認され、株当たり寄生虫数は0.04～0.24頭であった。
- (2) 巡回調査圃場付近において追加調査(東みよし町13圃場、三好市7圃場)を実施した結果、発生圃場率が95.0%、株当たり寄生虫数が0.47頭であった。調査20圃場のうち、3圃場で要防除密度(株当たり1頭)を超えた。
- (3) 高松地方气象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特に県西部地域の10月中旬以降に収穫を迎える作型について、発生が認められた場合は、液剤等により防除を行う。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(62.3%)並の発生であるが、寄生葉率は7.5%と、平年(2.0%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第5・6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時は発生圃場率が17.3%, 発病果率が0.4%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.02%)。
- (3) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 9～11月の降雨は果実の被害を激しくするため, 発病果が認められる場合は, 薬剤による追加防除を行う。

果樹共通

カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月におけるツヤアオカメムシ及びチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は, 勝浦町では, 9月第2半旬までは平年並に推移したが, 第3半旬以降, 平年に比べて少なく推移している。また, 上板町では, ほぼ平年並に推移している(表1)。
- (2) 9月第5・6半旬におけるカキの巡回調査では, 発生圃場率が16.7%, 被害果率が0.2%と, 平年(12.3%, 0.2%)並の発生である。

表1 勝浦町および上板町における予察灯への各種カメムシ類の誘殺虫数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2019年	2018年	2017年	2016年	平年	2019年	2018年	2017年	2016年	平年
9・1	97	116	11	308	68	16	10	63	22	15
9・2	128	396	64	230	99	23	29	32	23	12
9・3	36	181	63	133	104	8	21	61	8	16
9・4	6	856	123	137	142	6	10	14	1	9
9・5	27	619	410	277	187	23	14	42	3	18
9・6		150	524	631	193		18	166	15	39

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2019年	2018年	2017年	2016年	平年	2019年	2018年	2017年	2016年	平年
9・1	117	169	23	180	85	19	31	174	48	37
9・2	273	488	105	518	163	15	57	124	36	28
9・3	47	193	66	197	117	6	23	127	7	22
9・4	22	1499	64	183	228	2	13	37	5	8
9・5	10	882	93	133	218	4	12	69	10	11
9・6		124	145	216	90		2	40	4	6

- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が62.5%と, 平年(55.2%)並の発生であるが, 寄生株率は10.1%と, 平年(8.0%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生に助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が18.8%, 10株当たり寄生幼虫数及び蛹数が0.2頭と, 平年(17.9%, 0.1頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

シロイチモジヨトウ (7月30日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 9月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が75.0%, 寄生株率が19.6%と, 平年(29.6%, 1.8%)に比べて高い。

(2) 8月第2半旬から8月第5半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)が, 平年に比べて多かったことから, 8月31日付けで注意報を発令した。その後, 9月第3半旬までは平年よりやや少なく推移したが, 第4半旬以降再び増加し, 平年に比べて多く推移している。

(3) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫時に防除を行う。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が12.5%, 10株当たり寄生幼虫数が0.1頭と, 平年(9.4%, 0.1頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
 - (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難となるので、定期的に薬剤を散布して予防する。
 - (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生株率が0.2%と、平年(1.1%、0.02%)に比べてやや高い。
 - (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生に助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ (7月30日付けで注意報発令中)

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、寄生株率が5.1%、50株当たり寄生虫数が5.0頭と平年(40.8%、5.1%、3.7頭)並の発生である。
 - (2) 8月第2半旬から8月第5半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)が、平年に比べて多かったことより、8月31日付けで注意報を発令した。その後、9月第3半旬までは平年よりやや少なく推移したが、第4半旬以降再び増加し、平年に比べて多く推移している。
 - (3) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。
 - (2) フェロモン剤の交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

- 1) 予報内容
発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、被害度が3.4と、平年(28.5%、1.2)に比べてやや高い。
 - (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、被害度が6.6と、平年(94.4%, 15.8)に比べて低い。
 - (2) 高松地方气象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生に助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が62.5%と、平年(36.0%)と比べてやや高いが、寄生株率は6.6%と、平年(5.2%)並の発生である。
 - (2) フェロモントラップの定点調査では、9月第1～5半旬における9地点の平均誘殺数は平年並で推移している(図1)。
 - (3) 高松地方气象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

シロイチモジヨトウ (7月30日付けで注意報発令中)

- 1) 予報内容
発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生株率が19.6%と、平年(29.1%, 1.8%)に比べて高い。
 - (2) 9月第6半旬における秋冬ネギの巡回調査では、発生圃場率が77.8%、寄生株率が11.8%、50株当たり寄生虫数が10.2頭と、平年(33.0%, 3.2%, 2.7頭)に比べて高い。
 - (3) 7月第3半旬～第5半旬のフェロモントラップ定点調査において、誘殺数が平年に比べて多く推移したことから、7月30日付けで注意報を発令した。以降、増減を繰り返し、9月第4半旬に増加し、第4・5半旬における誘殺数は、502頭と平年(266頭)の約1.8倍となっている(図2)。
 - (4) 高松地方气象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量、日照時間はほぼ平年並で、特に期間の前半は気温が高いと予測されており、発生に助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

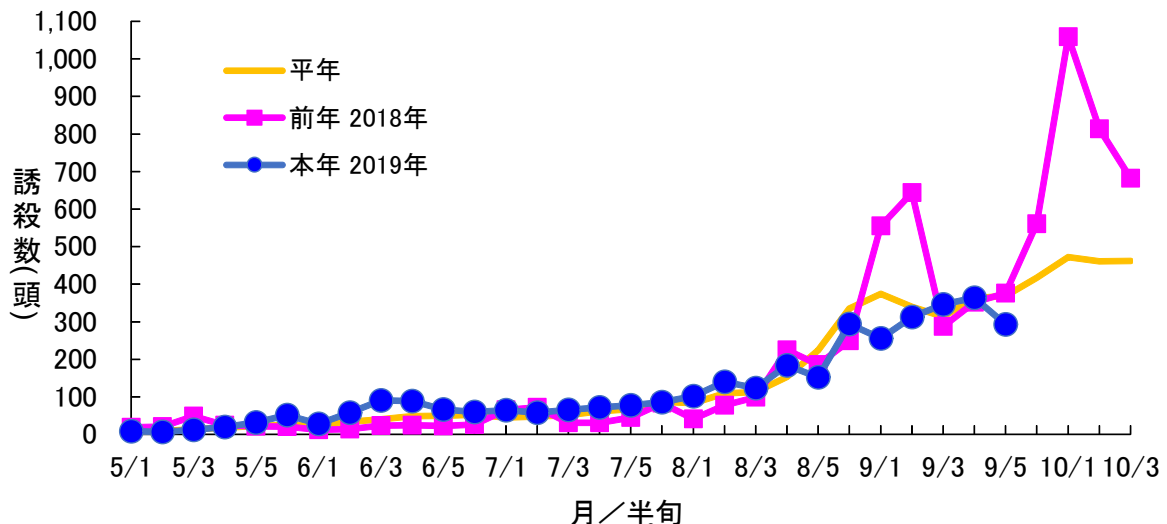


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

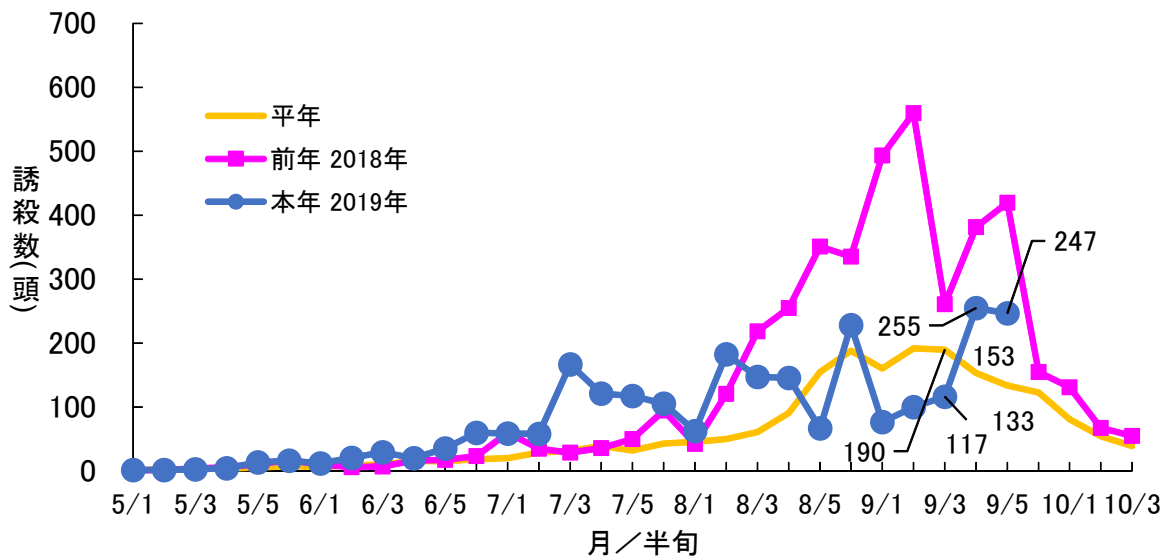


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「やや多」

2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップ定点調査において, 9月に入ってから平年並の誘殺数となっている。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量, 日照時間はほぼ平年並で, 特に期間の前半は気温が高いと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので, 使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

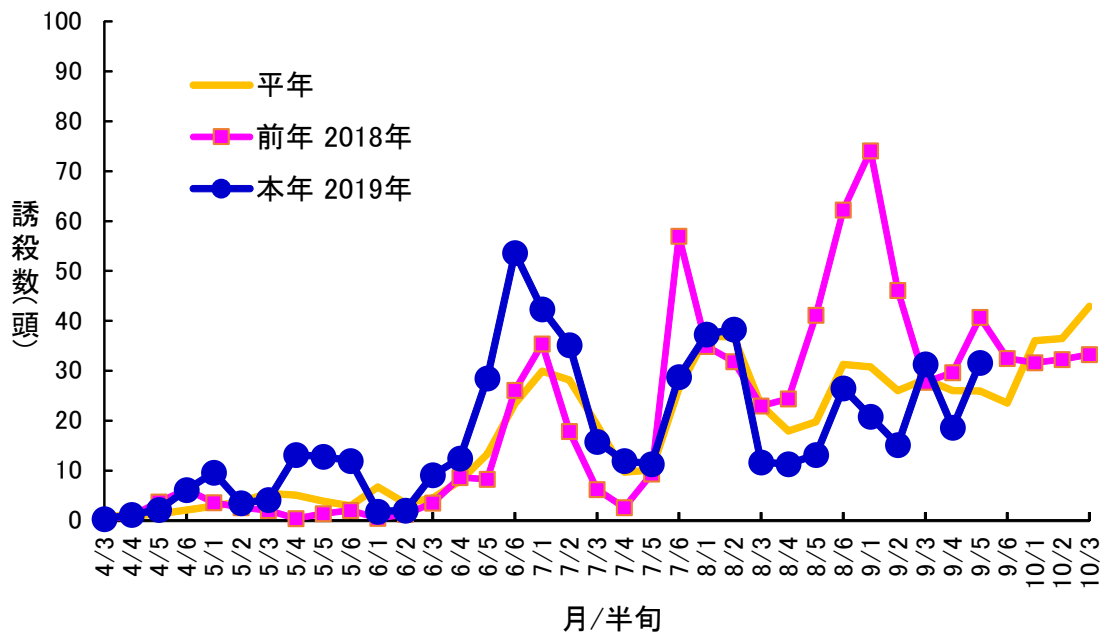


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

IV. その他

1. ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期である。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生を確認したら速やかに防除すること。
2. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。